



南高 なんこうだより（校長室から）Vol.13（R8.3.10）

第78回卒業証書授与式が無事終了しました ありがとうございます

令和七年度 第七十八回卒業証書授与式 式辞

烏帽子岳の景色、犬尾川のせせらぎ、季節の流れとともに、佐世保南高校にも いよいよこの日がやってきました。

この三月の佳き日に 多くの来賓のみなさまのご臨席を賜り、ここに長崎県立佐世保南高等学校第七十八回 卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、在校生・教職員にとりましても、この上ない喜びであります。心からお礼を申し上げます。

同窓会のみなさま、地域のみなさま、生徒たちが元気に南高での学校生活を送り、ここまで大きく成長できたのは、皆様の温かいご支援があったからこそです。本当にありがとうございました。本日、南高を卒業される78回生の皆さん、おめでとうございませう。教職員を代表してお祝い申し上げます。

三年前の四月、みなさんは「普通科」と「文理探究科」という新しい体制で、新たな学びを展開しようとするこの南高に入学してきました。みなさんは、新生南高の一期生でもあります。

この三年間、みなさんは、授業、部活動、学校行事に一生懸命取り組むだけでなく、自分の興味・関心に基づいてテーマを設定して課題解決に取り組む探究学習に取り組んできました。そして、南高の探究学習の骨組みを、教職員と一緒に創り上げてくれました。前例のないことに取り組むことは、まさに「挑戦」です。この「挑戦者」としての取組は、これから生きていく上で、大いに生かされてくるはずですよ。

私とみなさんとは一年間の付き合いでしたが、様々な場面でのみなさんの活躍を見てきました。また、私も前項集会などを通じて思いをみなさんに伝えてきました。ここからの話は「式辞」という堅苦しいものではなく、これまでと同様に私がいみなさんに伝えたいと思う話をしていきます。微かにでも、記憶に残ればうれしいですよ。

今日のテーマは「Professional」ですよ。

意味はわかりますね。形容詞では「職業の」「専門的な」、名詞では「職業」「専門家」などを意味します。しかし、単なる「専門家」ではなく、何かしらを極めた人間という意味合いが強い言葉ですよ。卒業生の中にも高校卒業後に職に就く人がいますし、大学・短大・専門学校の卒業後は、多くの人が「職」に就きます。ただし、単に就職したからといって「professional」「プロ」とは呼べないと思います。「professional」といえば、誰を思い浮かべますか？東京柏葉会の平会長は、まさにプロのシンガーですよ。南高の先輩にもたくさん「professional」がいらっしゃいます。

就職したからといってすぐに「professional」とは呼べないものの、「professional」を目指すことはできます。

ここで、詩人の俵万智さんの短歌を紹介します。「professional」を目指す上で、参考になると思います。

むっちゃ夢中 とことん得意 どこまでも 努力できれば プロフェッショナル

「professional」と呼ばれるには、自分が目指す道において、第一に無茶苦茶「夢中」になること、第二にその道をとことん「得意」になること、第三にどこまでも「努力」を続けることができること、が必要だということが詠まれています。みなさんの中にも、三年間の高校生活で、この三つことを実践してきましたよ、という人もいます。この「夢中」「得意」「努力」は、実はみなさんが頑張ってきた探究学習のプロセスにぴったり当てはまります。「夢中」になれそうなことをテーマにして問いを設定する、テーマや問いについてとことん調べてその分野が「得意」になる、そして問いの解決に向けて「努力」していく。当然、このプロセスは、授業での学習、部活動や学校行事への取組にもあてはまります。

南高での三年間で、みなさんは「professional」への道を着実に進んでいる、もしくはそのためのプロセスを身に付けているのです。「professional」への歩みは人それぞれで、初めは小さな一歩かもしれませんが、南高で学んだことに自信をもって、「professional」を目指してください。

その上で、もう一つ頭に入れておいてほしいのは、これから目指そうとしている「professional」への道は、一つではないということです。これまでみなさんが18年間過ごしてきた人生の舞台は、狭い舞台です。しかし4月から、みなさんの舞台は一気に広がっていきます。その中で目指す「professional」は変化して当たり前です。そして、一気に広がる舞台では、ぜひ「新しい世界をもっと知りたい」「自分を変えたい」という好奇心や前向きなマインドを持ち続けてもらいたい。

しかし、これは簡単なことではありません。前向きなマインドの最大の敵は自分自身、自分の脳です。人間の脳は、変化よりも安定を好みます。新しい行動を起こそうとすると、脳は「危険だ」と判断して行動にストップをかけてしまいます。「変える必要はないんだぞ」という「現状維持バイアス」が働き、不確実な選択による失敗や損失を回避しようとし、そして、「できる理由」より「できない理由」を探すこととなります。好奇心や前向きなマインドがあっても、行動に移せないことがあるということです。

そして、挑戦しない選択肢を選んだ結果、「あの時、やっておけばよかった」という後悔が残り、それは後々の人生に重たくのしかかってきます。

これからの社会は、「予測困難な社会」「不確実性の高い社会」です。現状維持や安定は通用しない社会です。やったことがないことにドンドン挑戦してください。面白そうだなと思う人と、ドンドン話をしてください。みなさんが動いた分、あなたの世界はきっと変わります。世界が少しでも変われば、それが次の行動にもつながります。みなさんの世界はドンドン広がり、「professional」へと近づいていくはずですよ。

「Think and Act」の Act です。

選択に迷ったら、動いて、動いて、動いて、動いて、動いて、チャレンジしてください。

今年の三月十一日で、東日本大震災が発生して早いもので十五年になります。震災直後、テレビコマーシャルが自粛される中で、代わりに流れていた公共広告機構のメッセージの一つで、詩人宮澤章二さんの「行為の意味」という詩があります。最後にこの詩を紹介します。

「行為の意味」 宮澤 章二

あなたの心はどんな形ですかと
人に聞かれても答えようがない
自分にも 他人にも心は見えない
けれどほんとうに見えないのであろうか
確かに心はだれにも見えないけれど
心づかいは見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の思いは見えないけれど
思いやりは見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為なのだから
あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
心も思いも、初めて美しく生きる
それは 人が人として生きることだ

みなさんの好奇心、前向きなマインドは、今この壇上からは見えません。これからの新しい世界で、ぜひ見えるもの、つまり行動として、動いて表現してください。これから、本当に色々あると思いますが、元気で頑張ってください。心からエールを送ります。

最後になりましたが、卒業生をこれまで励まし、支えてこられたご家族のみなさま、本日は本当におめでとうございます。本日のお子様の立派に成長した姿はいかがでしょうか。18年間の子育て、本当にお疲れ様でした。そして本校に対する三年間のご支援、ありがとうございました。南高については、これからも育友会 OB、コミュニティの一人として温かく見守っていただければ幸いです。

78回生のみなさん。みなさんをご家族の、そして母校南高の「宝物」です。そのことを忘れず、挑戦者として新しい道を歩んでください。「選択に迷った動いてみる」「やってみよう」です。

それでも人生に迷いが生じたときには、ぜひ母校に相談に来てください。君たちを育ててくれた、烏帽子岳を望むこの校舎は、君たちの帰りを温かく迎えてくれます。

みなさんの前途に幸多からんことを、心から願っています。

令和八年三月一日

長崎県立佐世保南高等学校長 舟越 裕